【研究論文】

助詞「ニ」による「言いさし文」
―書き言葉における「言いさし文」を中心に―

北見　聖

1．研究の目的

本研究の目的は、以下の２点である。

①助詞「ニ」による「言いさし文(1)」の整理。

②助詞「ニ」による「言いさし文」が書き言葉で好まれて用いられるのはなぜか。

2．「ニ」の用法

2．1　言い切り文における用法と「言いさし文」の用法との比較

山田(2004)(2)を参考に，言い切り文における格助詞の「ニ」の用法を表１にまとめる。

表１.言い切り文における格助詞「ニ」の用法

①　対象	壁にもたれる。
②　存在場所	庭に池がある。
③　時間	5時に起きる。
④　到着点	駅に着く。
⑤　変化結果	信号が赤に変わる。
⑥　方向	大阪に向かう。
⑦　出どころ	父に本をもらう。
⑧　割合の分母	3日に一度。
⑨　強意	走りに走る。
⑩　並立	国語に数学に英語の試験がある。

⑪ 動作の目的	買い物に行く。

集めたデータを，表１に照らし合わせて分類した結果が表２である。

表２.助詞「ニ」における「言いさし文」の用法

① 対象	細身で大人っぽいシルエットの『SEED』のビビッドムーンを２名に！
② 存在場所	ジャーナルスタンダード最大級の路面店が心斎橋に
③ 時間	短期の講習や体験型の旅に参加する予定ならこの時期に！
④ 変化結果	フレアチュニックでスレンダー体型に
⑤ 方向	ひざ上キュロットストールで目線を上に

表２を見ると，到着点，出どころ，割合の分母，強意，並立，動作の目的の６つの用法は集めたデータの中には出現しなかった。なぜこの６つの用法は「言いさし文」にならないのか，次項で考察していく。

２．２　助詞「ニ」における「言いさし文」にならない用法

到着点，出どころ，割合の分母，強意，並立，動作の目的のそれぞれの用法が，なぜ「言いさし文」の形で表れないのかを考察していく。

a.到着点

(9)　学校に行く。

(9')＊学校に

(10)　妹に本をやる。

(10')＊妹に

(10")＊本を妹に

(9)，(10)を「ニ」で言いさしたものが(9')，(10')である。情報の不足により，意味の伝わりづらさを感じるだろう。以下に示す「出どころ」と比

べると，「言いさし文」にしたときの用法の区別がつかなくなるところに，「言いさし文」になり得ない原因があると考えられる。

b.出どころ

(11)　父に本をもらう。

(11')＊父に

(11")＊本を父に

(10')はもともと到着点，(11')は出どころを表していたが，どちらも「(人)ニ」という形で一致している。情報を補うために(10")，(11")のように目的語を前にしてみても，到着点か出どころかの区別はつけられない。そのため，到着点，出どころの用法は「言いさし文」にはなりにくいと考えられる。

c.割合の分母

(12)　3日に一度。

(13)　50人に1人

(12')＊3日に

(13')＊50人に

「ニ」以降がニの前の単語にかかっているため，「ニ」以後も省略してはならない部分である。つまり，「ニ」以降も含めて，「(割合の分母にあたるもの)ニ(割合の分子にあたるもの)」のように，ひとつの文型として成り立っているため，「言いさし文」にはなり得ない。

d.強意

(14)　走りに走る。

(14')＊走りに

強意を表す場合は，繰り返すことによって強意を表現しているため，「ニ」以降の繰り返しの部分もなくてはならない。(14')は「ニ」で言いさしたも

のである。後件を補おうとすると，

(15)　走りに行く。

などが考えられる。(15)は，動作の目的にあたり，(14')の後件を補おうとするとき，強意の意味は想起しにくい。したがって，「言いさし文」にはなり得ない。

e.並立

(16)　国語に数学に英語の試験がある。

(16')＊国語に数学に

並立の意味を表す助詞には「ト」「ヤ」がある。「ニ」との違いを山田(2004)は以下のように説明している。

「と」は最も一般的な並立を表す形式です。「テーブルの上にはリンゴとみかんがある」と言った場合，「その他に特に類するものはない」ことも表しています。

「や」は他に何かある場合にも使えます。「テーブルの上にはリンゴやみかんがある」では，他にバナナなどがあることもあります。多くは「リンゴやみかんなど」のように副動詞「など」を伴います。(省略)「に」は「明日は数学に国語のテストがある」のように，1つのものに他のものを付け加える，いわゆる累加の働きをします。「数学と国語のテスト」と言ってもほとんど同じですが，「に」の方が思い出しながら追加しているニュアンスがあります。(山田(2004)pp.45-46)

ここで，(16)の「ニ」を「ト」，「ヤ」に置き換えてみる。

(17)　国語と数学と英語の試験がある。

(18)　国語や数学や英語の試験がある。

これらは「言いさし文」になり得るのだろうか。

(17')＊国語と数学と
(18')＊国語や数学や

「ニ」で言いさしたときと同じように，「言いさし文」にしてしまうと，文法的に許容できないものになってしまう。ここから，「言いさし文」では「並立」を表すことはできない，という推測が立つ。「国語」と「数学」と「英語」の異なる存在を「試験」で合一させようとするのが並立の働きだとすると，「試験」の部分が述べられていない「言いさし文」の形では「並立」の意味は表しきれない。

したがって，「ト」「ヤ」は「ニ」と比較すると多少のニュアンスの違いはあるものの，「並立」の意味を表す助詞は，全て「言いさし文」になり得ない。

f.動作の目的

(19)　買い物に行く
(19')＊買い物に

例えば(19)の主語が「私」で，かつ受身・使役を表すものだったとしたらどうだろうか。

(20)　私が買い物に行かせられる。
(21)　私が買い物に行かせる。

(20) の動作主は「行かせる人」，被動作主は「私」となり，(21) の動作主は「私」，被動作主は「行かせられる人」となる。(20)の起点は，動作主「行かせる人」，(21)の起点は動作主「私」である。起点の主語が異なるうえに，「ニ」で言いさした場合，「私が買い物に」までは(20)，(21)とも変わらない。動作の目的の用法が使われている「言いさし文」では，相手に伝わる情報に不足が感じられるため，「言いさし文」にはなりにくいと考えられる。今回のデータには出現しなかったが，倒置などを用いて情報を累加すれば言いさし表現は可能であろう。

a～f の考察より，「ニ」が「言いさし文」になるためには多くの制限があることが分かる。この制限のために日常会話では「ニ」の「言いさし文」が出現しにくいのだと考えられる。

3．雑誌における助詞「ニ」による「言いさし文」の妥当性

3．1　勧めの「タラ」「レバ」と「ニ」の比較

この節では，「ニ」を「タラ」「レバ」と比較することによって，助詞「ニ」による「言いさし文」が書き言葉において果たす役割を考察する。

まず，「タラ」「レバ」に関してだが，以下は白川(2004)からの引用である。

> 勧めの場面のうち，特殊なものを除けば[3]「P タラ」の方を使うことがふつうのようである。もっと言えば，勧めの用法の多くの場合について，レバ節を使うと，間違いとまでは行かないまでも，不要なニュアンスが出てきてしまうことが認められる。

(37)　慎平「それから……二週間くらいして，どこで聞いたのかわからないけど，突然，おれのマンションに来たんだ。」
誠「マンションへ!?」
慎平「せっかく来たものを，帰れとも言えないだろ？」
誠「それで，どうしたんだ？」
慎平「だから……ま……上がったらって言ったんだ……。」
(鎌田敏夫『男たちによろしく』p.11)

上の例は，白紙の状態で聞き手にＰという動作を行うよう勧める場面である。「白紙の状態」とは，聞き手が Ｐ ではない動作 Ｐ’ を行っていたり，Ｐを(本当はやりたいのに) やらずにいたり，といった，Ｐと対立する－Ｐがあらかじめ存在しない状態をいう。

このような白紙の状態では，タラ節で勧めるのがふつうであり，レバ節を使うと，特別な(多くの場合，不必要な)ニュアンスが生じる。たとえば，(7)で「上がれば」と言ったとすると，次の(38)あるいは(39)のよ

うな余計なニュアンスを伴ってしまう。

(38) 遠慮せずに上がればいいのに。
(39) 上がりたければ，上がればよい。

(白川(2004)pp.88-89)

つまり，レバ節は雑誌のような読み手存在の場合には，不適切な(不必要な)ニュアンスが伴ってしまうことを避け，使われないのだと考えられる。

では，なぜ「タラ」は書き言葉で「言いさし文」として出現しないのか。

勧めを表すタラ節による「言いさし文」は以下のようなものがある。以下は白川(2004)による。

(40) シャワー使ったら？
(41) 一の瀬「五代くん，今日病院に検査しに行くんだってさ。」
響子「あら，そうですか。」
一の瀬「付いていってやったら？」
響子「そんな……子供じゃあるまいし。」

(高橋留美子『めぞん一刻 7』p.196)
(白川(2004)pp.73-74)

この用法について，森田(1980)[4]は，

(3) 促す言い方
動詞を前件として，「～たら」で文を止めるか，「……たらいい／たらどう/……たらいかが」の形をとると，相手にある行為の開始または終始を促す表現となる。仮定的な条件を提示することによって，結果的にその実現を促す勧誘表現となるのである（下線部は筆者による)。

(森田(1980)p.287)

と，以上のように説明している。

「タラ」は，「ニ」に比べると，下線部より，強制感がやや強いのではな

いかと考えられる。すると，「タラ」で言いさした場合にも，「レバ」と同じように，相手に不快な印象を与えてしまう可能性がある。そのためタラ節による「言いさし文」が書き言葉に表れないのだ。

4．本研究の成果と今後の課題

4．1　本研究の成果

本研究では，

①助詞「ニ」による「言いさし文」の整理。
②助詞「ニ」による「言いさし文」が書き言葉で好まれて用いられるのはなぜか。

この2つを目的として研究を進めた。まず，①についてであるが，言い切りの「ニ」の用法と「言いさし文」の用法を比較した。その結果，到着点，出どころ，割合の分母，強意，並立，動作の目的の6つの用法は「言いさし文」には出現しないことが分かった。それぞれが，なぜ「言いさし文」になり得ないかを考察することで，助詞「ニ」による「言いさし文」の性質を整理することができた。データの中で最も多く出現したのは変化結果で，さらに細かく分類すると「純粋な変化結果」「印象の変化結果」「強調の変化結果」「状況の変化結果」「数量の変化結果」の5つが新たに出現することが分かった。

次に②についてであるが，「ニ」と「タラ」「レバ」の比較によって明らかにした。「ニ」は，「タラ」「レバ」に比べ，強制感が少ない。不要なニュアンスを相手に与えることのない助詞「ニ」による「言いさし文」が雑誌等の書き言葉として妥当なのである。

4．2　今後の課題

今後の課題は以下の3つである。

①データの収集の範囲を広げることが望ましい。
②ポライトネスの理論(5)からの考察。

③格助詞の「ニ」と形容動詞の連用形（～ニ）の比較。

①本研究では雑誌，新聞から助詞「ニ」による「言いさし文」のデータを集計したが，日常会話や歌詞，本の中には，本研究では見つけられなかった用法を表す「言いさし文」が出現する可能性も十分にあると考えられる。研究対象の範囲を広げることで，研究に，より深みを持たせることができるだろう。

②「言いさし文」の研究はポライトネスの理論からも行われている分野である。本研究では扱うことができなかったポライトネスの理論であるが，「言いさし文」の研究を行う上では，取り入れて考える必要のあるものだと感じた。「言いさし文」は最後まで言い切らないが，言い切りの文と同等の役割を果たすことができる。この背景には，会話の中で相手に配慮しようとする社会的言動が関わっていると考える。本研究では触れることができなかったので，今後の課題とする。

③本稿では、助詞「ニ」における「言いさし文」を研究対象としてきたが、興味深いのは，「言いさし文」として使用されると，格助詞の「ニ」と形容動詞の連用形（～ニ）とが似た働きをすることである。今回データに出現した形容動詞は格助詞の用法に基づいて分類したが、格助詞の用法と形容動詞の用法とで比較することで新たな発見の可能性がある。

---

(1) 「言いさし文」という呼び方については，白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版の説明を引用する。以下引用。
自然発話の非流暢性を扱う分野では，「私…」と言いかけてやめたり，「ダンス…」と言おうとして「ダン…」と言ってやめたりなど，比較的短時間の間に発話を打ち切ってしまうような現象を「言いさし」と呼んでいるようである。それに対して，本書での「言いさし」は，「言い切り」に対する意味で使われており，主節を欠いた統語的に不完全な文による発話をもっぱら指している。内容的には完全な「文」と同等の完結性を持った発話ばかりが対象となるので，「言いさし」という用語に違和感を持たれる読者もあるかもしれないが，文法的な捉え方として了解されたい。

(2) 山田敏弘(2004)『日本語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版

(3) 白川(2009)『言いさし文の研究』pp.84-87 参考。

(4) 森田良行(1980)『基礎日本語 2』角川書店

(5) ポライトネスとは，人間関係を維持するための社会的言語行動である。人間には面子に係わる欲求があり，相互の人間関係の維持を望むならば，それを互いに脅かさないように行動(言語使用)しようとする。それがポライトネスである。ポライトネスは，当事者同士の互いの面子の保持，人間関係の維持を慮って円滑なコミュニケーションを図ろうとする社会的言語行動を指す。『ポライトネス』(P・ブラウン，S・C・レヴィンソ 2011)や，『こころと言葉』(長谷川寿一，C.ラマール，伊藤たかね 2001)等で扱われている。

【用例出典】

［雑誌］

『CHoki CHoki girls』(2013)内外出版社

『Soup.　4月号』(2013)インデックス・コミュニケーションズ

『SPRING　6月号』(2012) 宝島社

『Street Jack　10月号』(2012)KKベストセラーズ

『古着 Mix ガールズ　4月号』(2012)学研マーケティング

［新聞］

『信濃毎日新聞』(2013.10.22)

『信濃毎日新聞』(2013.11.27)

『中日新聞』(2013.12.28)

『中日新聞』(2014.1.1)

『読売新聞』(2013.10.22)

［教科書］

光村図書出版株式会社編集部(2012)『中学校国語１』

光村図書出版株式会社編集部(2012)『中学校国語２』

光村図書出版株式会社編集部(2012)『中学校国語３』

［その他］

おもしろい心理学『面白いほどわかる！他人の心理大辞典』青春出版社

桜木紫乃『誰もいない夜に咲く』角川書店

チャック・ノリス『チャック全開！　チャックノリス「最強」伝説』新潮文庫

中脇初枝『きみはいい子』ポプラ社

三浦しをん『まほろ駅前狂騒曲』文藝春秋

よしもとばなな『夜のベッドでひるねして』毎日新聞社）

【参考文献】

生田少子(1997)「ポライトネスの理論」『言語』大修館書店

白川博之(1990)「「カラ」で言いさす文」『広島大学教育学部紀要』第二部

白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版
長谷川寿一，C・ラマール，伊藤たかね編(2008)『こころと言葉　進化と認知科学のアプローチ』東京大学出版会
森田良行(1980)『基礎日本語 2』角川書店
山田敏弘(2004)『日本語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版

（きたみ　あきら　佐久市立中佐都小学校）